

三圏域連携立音楽会

久

慈・八戸・二戸の三圏域が音楽を通して交流する三圏域連携音楽会（同実行委員会主催）

は12月23日、アンバーホールで開催されました。

市内の「こはくのまち久慈合唱団」、「久慈高校音楽部」をはじめ「カシオペア連邦合唱連盟」、「二戸高校音楽部」、「男性合唱団八戸メンネル・コール」、「八戸市民フィルハーモニー交響楽団」の6団体、約220人が出演。次々に披露される伸びやかな歌声と迫力ある演奏に約1000人の来場者はすっかり酔い酔いでいました。

各団体の発表の後はいよいよ合同発表。八戸市民フィルの演奏に合わせて各団体が美しい歌声を響きわたらせました。交流の輪が織り成す壮大なハーモニーに観客からは割

れんばかりの拍手が。アンコールもあり、交流の舞台は美しい音楽で締めくくられました。

音楽会後は会場を移して交流会を開催。出演者は互いの労をねぎらいながら改心の出来のステージを振り返り、話に花を咲かせていました。娘と友人の3人で音楽会を鑑賞した中川敏枝さん（宇部町）は「合唱と演奏が一緒になると迫力が違う。体中に音楽が響きわたるようだった。この交流の輪が音楽以外にも広がってほしいと思う」と満足げな表情を浮かべていました。

来年度は八戸市を会場にベートーベンの「交響曲第九番」に挑戦する予定。大きく広がる交流の輪が、どんなに素晴らしい「第九」を奏でるのか今から期待させられます。



団員の合同発表。会場に大きな感動が広がりました

こはくのまち久慈合唱団

■晴山ヨウ子さん
■梶田カツエさん
音楽会に向けて半年以上前から準備を進めてきました。今の気持ちを一言で表すと「ヤッタ！」という感じです。本当に完全燃焼。練習の成果をすべて発揮できました。

カシオペア連邦合唱連盟

■平野祐子さん（一戸町）
最初はどうか不安でしたが、練習を続けるうちに徐々に息が合ってきました。オーケストラと合わせて歌うのもすばらしいと改めて感じました。

八戸市民フィルハーモニー交響楽団

■宮内由輝子さん（十和田市）
合唱と合わせると演奏するわたしたちも感情移入しやすい。一体感ができた良い発表ができました。来年の「第九」に向けてまた力を合わせて頑張りたいです。



これぞ練習の成果！雰囲気満点の演技が光ります



初参加の名子役

※左から
■蒲田陸斗くん（山形小2年）緊張したけど楽しかった！
■橋本京香ちゃん（山形小2年）練習の成果が出せた！
■佐々木響子ちゃん（山形小4年）お客さんの乗りも良くて楽しかった！
■畑中亘輝くん（山形小2年）拍手されて調子が出た！

役者を輝かせる裏方さん

※左から
■音響・下田敏子さん（山形町）出演者のテンションが上がるとわたしたちも上がる。良い役者さんに恵まれました。
■照明・柳久保千春さん（山形町）芝居は生もの。その時によって間が違う。役者を引き立たせて舞台の雰囲気をよく作っていました。

笑いとお礼を届けたキャスト、スタッフが大集合！舞台をやり遂げてみんな良い表情です



市

民がキャスト、スタッフを務め、手作りの演劇を披露する市民おらほる劇場（市教育委員会主催）は12月21日、おらほるで上演されました。

今回の演劇は山形町の内間木洞を舞台とした痛快喜劇「内間木モグラーズ」。脚本・演出は昨年度の第1回公演に引き続き、こむろこうじさんが担当しました。

「内間木」は内間木洞を見学に訪れた家族や学童クラブの子ども、研究者らが繰り広げる奇想天外な物語。少し頼りない源義経や泣き虫の武蔵坊弁慶、ダンスも踊るコウモリなどユーモアあふれる登場人物が絡み合いました。

物語はユーモアたっぷりでも演技は真剣そのもの。旧山形村の村民劇場から演劇に携わるベテランも、初めての参

加者も、大きな声と動きで堂々とした演技を披露しました。みんなで励まし合い、頑張ってきた9月からの舞台稽古。その成果が発揮された演劇に約400人の観客は大声で笑い、最後は惜しみない拍手を送っていました。観客だけでなく公演を終えたキャスト、スタッフの表情も晴れやか。皆、笑顔で手を握り感動を分かち合っていました。

近くに住む子どもが出演するということで、その同級生の娘2人を連れて来場した高崎美津子さん（新中の橋）は「想像以上に良かった。演技も凝っていてお金を払ったかいたがよかった」と大満足。娘の結子さん（久慈中2年）と琴乃ちゃん（久慈小4年）は「同級生の意外な一面が見られた。劇もとてもおもしろかった」と声をそろえていました。

市民おらほる劇場

市民が主役！

団結が生んだ笑顔と感動